

# 「学院資料・村岡花子文庫展示コーナー」の紹介

谷川 祐子

2015年4月15日、六本木校地の本部・大学院棟1階に「学院資料・村岡花子文庫展示コーナー」がオープンしました。日本中を楽しませたNHK連続テレビ小説「花子とアン」放映直前の2014年9月に、村岡美枝、恵理姉妹が深町正信院長を訪問し、村岡花子関連資料を学院に寄贈したいご希望を伝えられたことが発端でした。

村岡家が村岡花子晩年の書斎を「赤毛のアン記念館・村岡花子文庫」とし、先生の著作や蔵書のみならず同時代の児童書を大切に保存し公開されてきたという実績を学院が継承し、学院創立130周年記念事業として、2014年度に資料を受け入れることと、新しい展示コーナーの開設を決定しました。

今までの「学院史料展示コーナー」を、村岡花子の書斎の雰囲気が少しでも再現できる場所となるよう拡大改装し、名称も変更しました。

3月24日、村岡花子の著作や蔵書、書簡類、原稿、書斎の家具、身の回りの品々(第一回目)が学院に到着しました。花子は『赤毛のアン』初版本のあとがきに、「この訳業を麻布の丘の母校にこもる若き日のおもいでと、今ここに学びつつあるわが心の妹たちにささげます。」と記しています。その麻布の丘の母校に資料が届けられました。花子の心の妹たちのためにお役にたてるようにと襟を正した瞬間でした。

「学院資料」常設展示では学院の年表を掲げ、ミス・カートメルが太平洋を渡った時に使用した木製のトランクや日本からのお土産としてカナダに持ち帰った櫛やペン皿などを展示しています。

「村岡花子文庫」常設展示では花子愛用の書き物机と書棚と共に、書斎の様子が再現されています。また亡くなられた息子さんの名前を冠した村岡家の子ども図書館にちなみ、自由に本を手にとって読める「道雄文庫ライブラリー」もあります。また村岡花子を映像で紹介しているコーナーもあります。

常設展示に加え年に数回内容を入れ替え、企画展を行います。第1回目は村岡花子文庫展示コーナーが「村岡花子『運命の一冊』展」と題し原書の *Anne of Green Gables* と *THE PRINCE*

*AND THE PAUPER*、そして『赤毛のアン(初版本)』、『赤毛のアン』の翻訳直筆原稿などを展示しました。今後も村岡家にも企画に携わっていただき、いろいろな角度から村岡花子像を紹介していきたいと思っています。

学院資料コーナーでは引き続き史料室にある多くの資料を、興味を持っていただけるようなテーマで紹介していきたいと考えています。

学院ホームページの「東洋英和と村岡花子」というサイトでは最新情報をお知らせしています。また企画展ごとに展示内容を記載した簡単なチラシを作成し、見学者の方々の理解を深めていただくとともに、展示記録としても役立てたいと思っています。

今後「学院資料・村岡花子文庫展示コーナー」を訪れた方々が、村岡花子が仕事と家庭を両立させ著作を通して多くの夢を人々に与え続けた生き方を学べるよう、また東洋英和の関係者の方々は学院資料から建学の精神に触れその一員であることの誇りを深く思う場所となるよう、そして広く地域や社会に貢献できる場所となるように活用していきたいと思っています。

(院長室・史料室)

見学可能日時：月～金曜日 9：00～20：00

土曜日 9：00～19：00

日曜日・祝日・長期休暇中はお休みします。

企画展等詳細については

URL [http://www.toyoeiwa.ac.jp/muraokahanako\\_bunko/index.html](http://www.toyoeiwa.ac.jp/muraokahanako_bunko/index.html) をご参照下さい。



学院資料・村岡花子文庫展示コーナー  
村岡花子文庫常設展示